

【J A金山、自己改革の取り組み】

第28回J A山形県大会において決議された創造的自己改革の実践による「農業者の所得増大」・「農業生産の拡大」・「地域の活性化」の初年度及び第5次中期計画の最終年度として、組合員の営農と生活の向上を実現するJ A、協同組合運動を地域に展開するJ A及び参加・参画により運営し自主・自立により経営するJ Aを目指します。

(1) 営農指導

農業をめぐる情勢は、改正農協法が施行され、コメ政策では、平成30年産より米の直接支払交付金の廃止、県農業再生協議会を中心に「生産の目安」を設定し取り組み2年となります。

自らの創意工夫に基づく「創造的自己改革」に今後も取り組んでいきます。まずは、農業者の所得増大（コスト削減）と生産拡大（新品目・支援等）による農業振興拡大や、営農指導員と生産資材の連携による低コスト栽培の誘導、そして管内農業の特徴や地域の実態に応じた具体的な下記の計画を実施し、生き甲斐のある「地域の活性化」に繋げていきます。

また、将来にわたって安定的な稲作経営を展望できるよう「需要にもとづいた米づくり」として水田活用米穀の生産拡大を推進し、主食米の需給と価格安定をはかるとともに、生産コスト削減方策として肥料・農薬・出荷資材等の価格改定を実施し「見える化」をはかります。さらには周年農業の確立と担い手農家の定着および新規就農者支援を強化していきます。

尚、本年度予算は、5, 530千円となっています。

- ① 地域水田農業の推進（水田活用米穀の取組み）と農作業受託組織体制拡充（労働力削減）「備蓄米：720㌧」・「飼料用米：290㌧」・「加工用米：30㌧」・「輸出用米：10㌧」に取組みます。
- ② G A P 認証（60ha）・栽培履歴（全面積）、DNA検査・食味分析等の安全安心な良食味米の生産に取組みます。
- ③ コスト・労力低減栽培の確立・密苗／直播（80ha）の拡大をはかります。
- ④ 離農者が年々増加するなかで、一戸あたりの栽培面積拡大をはかりブランド産地の維持を目指します。
- ⑤ 集落営農や新規就農を支援し農地の集積・集約化をはかり効率性と所得の増大を目指します。

(2) 生産資材

生産資材においては、安全・安心な農畜産物の生産と低コスト農業の実現に向けて、年特購入への誘導および生産組織・関係機関との連携をはかり、良質で安価な

資材の安定供給につとめます。

- ① 肥料・農薬価格（集約銘柄）の更なる特別価格を設定しコスト削減の目に見える化をはかります。
- ② 年特予約の利用向上を進め、秋の自己取り奨励・年間の利用高還元等による資材コスト削減の誘導を目指します。
- ③ 使用済み廃プラの回収に努め、環境問題により一層の取組みを強化します。
- ④ 主食用米のフレコン（1ト袋）無償貸与出荷拡大と備蓄用・飼料用・加工用米のフレコン出荷拡大を推進します。
- ⑤ 営農指導員と連携し更なる低コスト生産体系を目指します。